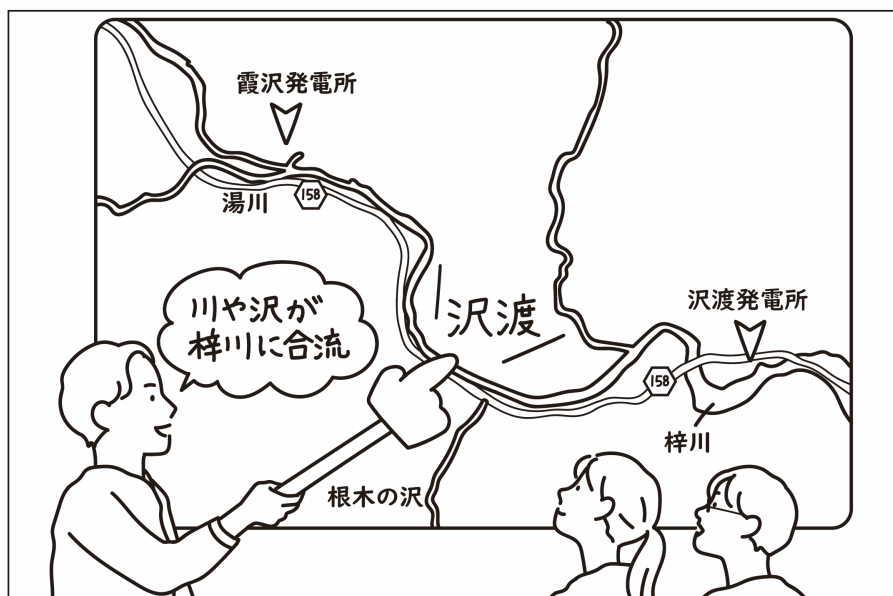


「Kita Alps Traverse Route」ならではの

体験ストーリー集

— 沢渡エリア編 —



2025 年 3 月

中部山岳国立公園管理事務所

目次

I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方	1
II. 沢渡の望ましい体験	4
III. 沢渡ならではの体験ストーリー	5
1. 沢渡ならではの価値・魅力 1	
「"地獄谷"から上高地の玄関口へ、沢渡の発展の歴史」	6
梓川の絶壁に囲まれ、常に霧がたちこめていることから、かつては「地獄谷」と呼ばれた。 沢渡が大きな発展を遂げる契機となったのは、大正時代に始まった電源開発。昭和初期の霞沢 発電所建設を機に道路環境が向上し、上高地・白骨 温泉・乗鞍高原へのバス運行が始まった。 上高地へ向かう道路は、利便性向上により多くの車が殺到し、大渋滞を引き起こすこととなり、 昭和 50 (1975) 年に全国初のマイカー規制が導入された。これに伴い、沢渡はマイカー規制の乗 換拠点となり、「上高地の玄関口」という大きな役割を担うこととなった。	
2. 沢渡ならではの価値・魅力 2 「信州と飛騨をつなぐ古道「鎌倉街道」」	13
鎌倉時代の中心地・鎌倉と全国各地を結ぶ道路網「鎌倉街道」。沢渡周辺は信州信濃・飛騨・越 中を結ぶ鎌倉街道が通る。この道は、鎌倉時代以降も信州と飛騨を結ぶ貴重な交通網として多く の人に利用されたとされる。 現在は古道となったものの、池尻砦まで遊歩道が整備され、歴史に思いを馳せながら美しい風 景を楽しむことができる。	
3. 沢渡ならではの価値・魅力 3 「清流梓川とともに生きる暮らし」	18
槍ヶ岳から注ぐ清流梓川は、急峻で美しい渓谷を刻み、イワナやヤマメなどの川魚をはじめと する豊かな生態系を育んでいる。 水の豊富な沢渡は、かつては水運に利用され、現在は多数の発電施設を抱えるなど、梓川は古 くから人々の生活を支える存在でもある。 長野県は水力発電所数が全国 1 位となっており、山と川とともに生きる暮らしは、長野らしさ を象徴するものとも言える。	

はじめに

令和3（2021）年から中部山岳国立公園南部地域を中心に、松本市街地と高山市街地をつなぐ行政区分にとらわれない横断的な地域を一つの観光圏として捉え、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地へと磨き上げていく「松本高山 Big Bridge 構想」実現プロジェクトを進めています。利用と保全の好循環による持続的な観光として構想を実現するための総合循環型観光圏を「Kita Alps Traverse Route」と名付け、一体的な旅づくりとプロモーションの取組を進めているところです。

「Kita Alps Traverse Route」には、構成する地域ごとに自然・文化等の特徴的な魅力があります。こうした特徴的な魅力が、この観光圏の来訪者へ、この地域ならではの体験として提供されることで、魅力が価値として伝わり、来訪者との土地に特別なつながりが生まれ（満足度が向上しファンが拡大し）、この地に訪れる価値・滞在価値がさらに向上し（地域のブランド化が進み）、選ばれる観光圏が確立され、社会の充実や自然・文化等地域資源の保全につながる総合循環型観光圏の実現に至ると考えています。

本冊子『「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集』 - 沢渡エリア編 - は、「Kita Alps Traverse Route」の沢渡エリアの特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に「わかりやすく」、「共感できる形で」伝えられるよう、短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたストーリー集です。

来訪者がこのエリアで滞在する中で、宿やお店、バスの乗り換え場所、ビジターセンター・案内所、歩道や展望地などで、多岐にわたる利用サービスが提供されます。本冊子が、このエリアで利用サービスを提供するすべての関係者による、このエリアならではの旅づくりと旅の提供につながり、来訪者とのエリアとの特別なつながりを強くしていくことに活用されることを期待しています。

I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集（以下「ストーリー集」）は、中部山岳国立公園南部地域の8つのエリア（上高地、山岳エリア、乗鞍高原、乗鞍岳、白骨温泉、新穂高温泉、平湯温泉、沢渡）ごとに特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に伝わりやすく短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたものです。

来訪者の方々に「Kita Alps Traverse Route」の価値に触れ、内面の変化を得てもらうことを目指し、ガイド事業者や旅行会社の方、各拠点の拠点施設や宿泊施設、飲食店、土産物店等でお客様と直接接する方、メディアの方等に活用いただくことを想定しています。

なお、本ストーリー集は、令和6年度時点に収集した情報をもとにまとめたもので、今後、内容面のさらなる充実、ターゲットやテーマに応じた磨き上げなど、計画策定後も活用をとおしてブラッシュアップを重ねていければと考えています。皆様も活用を通じてお気づきのことがあれば、ぜひ環境省中部山岳国立公園管理事務所までご意見をお寄せください。また、他のエリアのストーリー集をご覧になりたい場合も環境省中部山岳国立公園管理事務所までご連絡ください。

<ストーリー集の活用イメージ>

○ガイド事業者、旅行会社の方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を提供するプログラム・ツアーを造成する。
- ・本ストーリー集掲載のカードを使って、ツアーの最後にツアー中に触れられなかった価値についても情報提供する、あるいは同じエリアの別のテーマを取り上げたツアー商品等を紹介することで、来訪者に次回訪問のきっかけを与える。

○観光協会やビジターセンター等の拠点施設でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を意識して、来訪者に対して情報提供を行う。
- ・中部山岳国立公園南部地域内の拠点間の違いとつながりを説明することで、来訪者に対して「Kita Alps Traverse Route」の価値を紹介する。

○宿泊施設や飲食店、土産物店等でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・自身の宿や店で提供する商品等について、本ストーリー集を参考にストーリーをもって説明、販売することで、「ここならではの価値」のある商品として来訪者の購買意欲を高める。
- ・自身の宿や店で利用者から地域や商品等について質問を受けた際、本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を紹介する。
- ・本ストーリー集掲載のカードの内容をそのまま伝えるだけでなく、地元で働く人ならではの視点を盛り込みながら、適宜アレンジして伝えることで、「ここでしかできない体験」を提供する。

○メディアの方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を全国・世界へ発信する。
- ・本ストーリー集を活用した取組を進めている行政関係者や観光協会事務局等に取材をすることで、中部山岳国立公園南部地域における「松本高山 Big Bridge 構想」の実現に向けた動きを発信する。

本ストーリー集の構成は以下の図のとおりです。

「望ましい体験」は、このエリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、このエリアだからこそ体験しておくべき、このエリアならではの体験を、想定する旅行者像ごとに整理したものです。このエリアならではの体験ごとにストーリーと資源の解説がまとめられた「カード」が、このエリアを特徴づける資源の種類に応じた「カテゴリー」で分けられ整理されています。

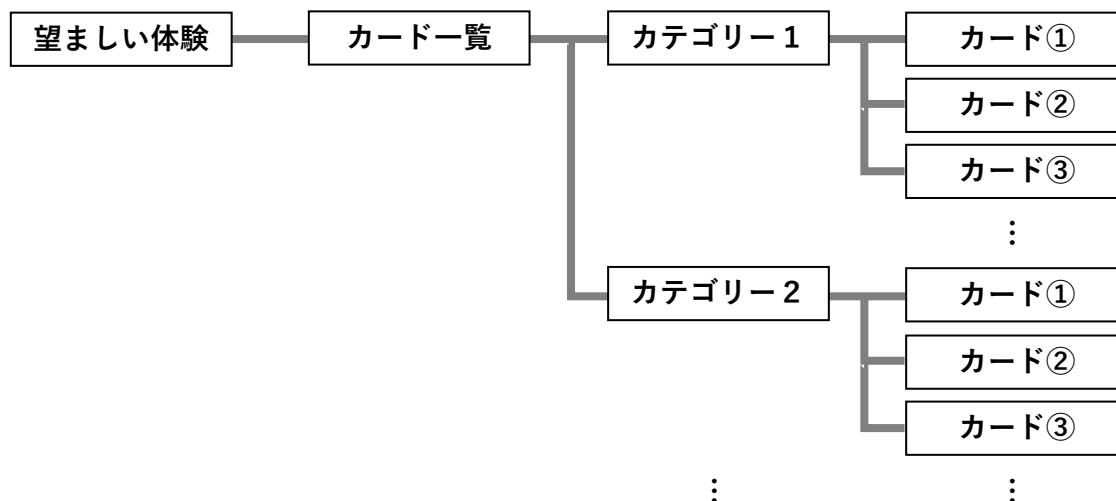


図 ストーリー集の構成

「カード一覧」には、各カードの体験を4つに分けた「ジャンル」と、旅の趣向により6つに分けた「旅行者分類」との対応を整理しています(各類型の定義はカード一覧の凡例をご覧ください)。

ジャンルや旅行者分類は、旅行のテーマやターゲットにあわせて、カードに示した体験や資源のストーリーを組み合わせる旅づくりを考える際の参考として活用することを想定しています。

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
展の「地獄谷」の歴史 の玄関口へ、沢渡の発	1-①	川の集まる場所・沢渡	CA				●		
	1-②	沢渡を変えた電源開発	CA				●		
	1-③	霞沢発電所の建設と上高地の発展	CA				●		
	1-④	道路整備の恩恵と代償	NE	●	●	●	●		
	1-⑤	東の玄関口・沢渡ナショナルパークゲート	NE	●	●	●	●	●	●
	1-⑥	地域の魅力を形成する温泉	WS			●		●	●
倉街道 つなぐ古道 信州と飛騨	2-①	飛騨との交流を深めた鎌倉街道	CA				●		
	2-②	人間活動の名残を感じられる池尻湿原	NE				●		
	2-③	飛騨侵攻の最前線に築かれた池尻砦	CA				●		●

図 カード一覧の例

各カードの構成は以下のとおりです。

カード名は、ここならではの価値やストーリーを感じられる資源や体験、背景となる情報を一言で表すタイトルとなっています。

説明文やイラストは、他のエリアや他地域の資源との違い、ここならではの価値やストーリーを表現するように留意して作成しています。

イラストの下部には、説明文の補足として、説明文に出てくる用語の解説や、説明文で紹介した価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介をしています。説明文のみで足りると判断したものは空欄の場合もあります。

沢渡ならではの価値・魅力 1 "地獄谷"から上高地の玄関口へ、沢渡の発展の歴史

1-③：霞沢発電所の建設と上高地の発展

昭和 2 (1927) 年に建設された霞沢発電所は、取水口を大正池とし、水路長 7,656m、有効落差 454m は、建設当時東洋一の規模（世界レベル）であった。

上高地へ向かう旧釜トンネルは、霞沢発電所建設に伴い、大正池への資材運搬のために建設されたもので、後に自動車道として整備され県道へと移行、車両アクセスの始まり（きっかけ）となった。

また、大正池は土砂が堆積しやすく、霞沢発電所が稼働し始めた時点ですでに面積が縮小傾向にあった。発電所を管理する東京電力では、昭和 50 (1975) 年より毎年平均 20,000 m³ の土砂の浚渫を行い、大正池の面積・水量を維持している。

霞沢発電所の整備・維持は、沢渡の発展はもとより、現在の上高地の利用と密接に関わり合っている。



霞沢発電所 霞沢発電所の建物内の見学等はできないが、国道 158 号沿い（下り方面）のグレンパークさわんどを通過し、白骨温泉方面との分岐手前の右手に長い水圧鉄管が見える。

大正池 大正池は今や上高地の主要な観光資源だが、浚渫を行わなければ数年のうちに土砂で埋まってしまうと言われる。大正池を訪れる際には、沢渡との意外なつながりにも思いを馳せたい。

● カテゴリー名

● カード名

ここならではの価値、ストーリーを伝える説明文

ここならではの価値を表現したイメージしたイラスト

説明文の補足（用語の解説、価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介）

図 カードの例

Ⅱ．沢渡の望ましい体験

想定する旅行者像ごとに、沢渡エリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、沢渡だからこそ体験しておくべき、沢渡ならではのオススメの体験は以下のとおりです。

<上高地へ向かう人>

- 沢渡ナショナルパークゲートで上高地に関する基礎情報や、天候等のリアルタイム情報を得て、上高地への期待感を高める。
- 上高地利用と沢渡の関係性を学び、上高地への理解を深める。
- 上高地から帰ってきた際には、次の目的地への出発・帰宅前に軽食をとったり、お土産を買ったり、日帰り温泉を楽しんだりしながら、旅の余韻に浸る。

<登山者>

- お腹を満たす、体調を整える、安全登山のための情報を得るなど、これからフィールドへ出かける人自身の準備を整える。
- フィールドから帰ってきた際には、沢渡ナショナルパークゲートの展示を見てフィールドで見てきたものの復習をしたり、日帰り温泉を楽しんだりしながら、山歩きの余韻に浸る。

Ⅲ. 沢渡ならではの体験ストーリー

<カード一覧>

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
展の歴史 の玄関口へ、沢渡の発地	1-①	川の集まる場所・沢渡	CA				●		
	1-②	沢渡を変えた電源開発	CA				●		
	1-③	霞沢発電所の建設と上高地の発展	CA				●		
	1-④	道路整備の恩恵と代償	NE	●	●	●	●		
	1-⑤	東の玄関口・沢渡ナショナルパークゲート	NE	●	●	●	●	●	●
	1-⑥	地域の魅力を形成する温泉	WS			●		●	●
倉街道 つなぐ古道 信州と飛騨を 鎌倉を	2-①	飛騨との交流を深めた鎌倉街道	CA				●		
	2-②	人間活動の名残を感じられる池尻湿原	NE				●		
	2-③	飛騨侵攻の最前線に築かれた池尻砦	CA				●		●
	2-④	悲劇に終わった三木秀綱の信州逃亡	CA				●		●
らし もに 生 き る 暮	3-①	車窓から望む梓川沿いの渓谷美	NE	●	●	●	●	●	●
	3-②	梓川の恵みを感じる溪流釣り	SA					●	
	3-③	御用杉を支えた中継地点	CA				●		
	3-④	自然の脅威であり恵みとなった土砂崩落	NE				●		

■ジャンルの軸

- ・ Nature&Ecosystem&Conservation (NE) …自然探勝、動植物観察、マイカー規制など自然と人の共生に係る保全の取組など
- ・ Culture&Art (CA) …食文化、生活などの異文化体験、伝統工芸や芸術作品等の鑑賞、歴史探勝、地域の歴史や文化を守るための取組など
- ・ Wellness&Spiritual (WS) …温泉、リトリート体験、リフレッシュなど
- ・ Sports&Activity (SA) …登山、ロングトレイル、スキー、キャンプなど

■旅行者分類

- ・ Sightseeing Tourist (ST) …有名観光地を巡る一般的な旅行者。色々な国や地域に行ってみたい層。
- ・ Resort Vacationer (RV) …海山川などのリゾート地を目指すバケーション旅行者。
- ・ Wander Backpacker (WB) …世界中を放浪するバックパッカー旅行者。
- ・ Educated Traveller (ET) …異文化好奇心を持つ旅慣れた知的旅行者。
- ・ FR Visitor (FR) …南部地域のリピーター、親戚や友人等の訪問を目的とする VFR 旅行者。
- ・ Special Interest Hunter (SI) …特定の趣味を旅の主目的とする旅行者。

沢渡ならではの価値・魅力 1

”地獄谷”から上高地の玄関口へ、沢渡の発展の歴史

梓川の絶壁に囲まれ、常に霧がたちこめていることから、かつては「地獄谷」と呼ばれた。

沢渡が大きな発展を遂げる契機となったのは、大正時代に始まった電源開発。昭和初期の霞沢発電所建設を機に道路環境が向上し、上高地・白骨温泉・乗鞍高原へのバス運行が始まった。

上高地へ向かう道路は、利便性向上により多くの車が殺到し、大渋滞を引き起こすこととなり、昭和 50（1975）年に全国初のマイカー規制が導入された。これに伴い、沢渡はマイカー規制の乗換拠点となり、「上高地の玄関口」という大きな役割を担うこととなった。

1-①：川の集まる場所・沢渡

1-②：沢渡を変えた電源開発

1-③：霞沢発電所の建設と上高地の発展

1-④：道路整備の恩恵と代償

1-⑤：東の玄関口・沢渡ナショナルパークゲート

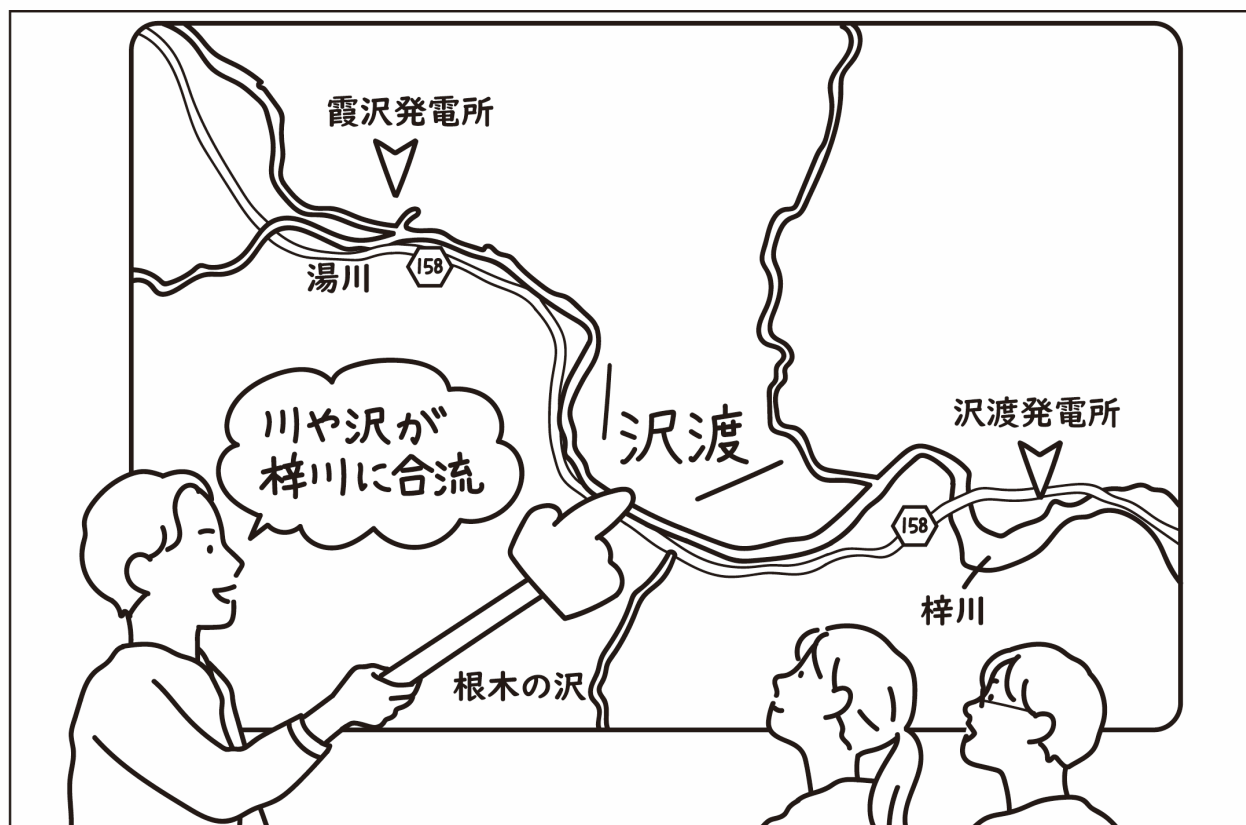
1-⑥：地域の魅力を形成する温泉

1-①：川が集まる場所・沢渡

旧安曇村地域には、沢渡のほかにも前川渡、奈川渡など「渡」とつく地名が見られるが、「渡」は大きな川の支流が流れ込む川の合流点を示していると言われる。

沢渡は、白骨から湯川、乗鞍から根木の沢、霞沢岳から霞沢が梓川に合流している水の豊富なところで、これが地名の由来となっている。

かつては地獄谷と呼ばれ、1～2人の村人が出作りをしているだけで、明治33（1900）年頃まで定住している者はいなかった。



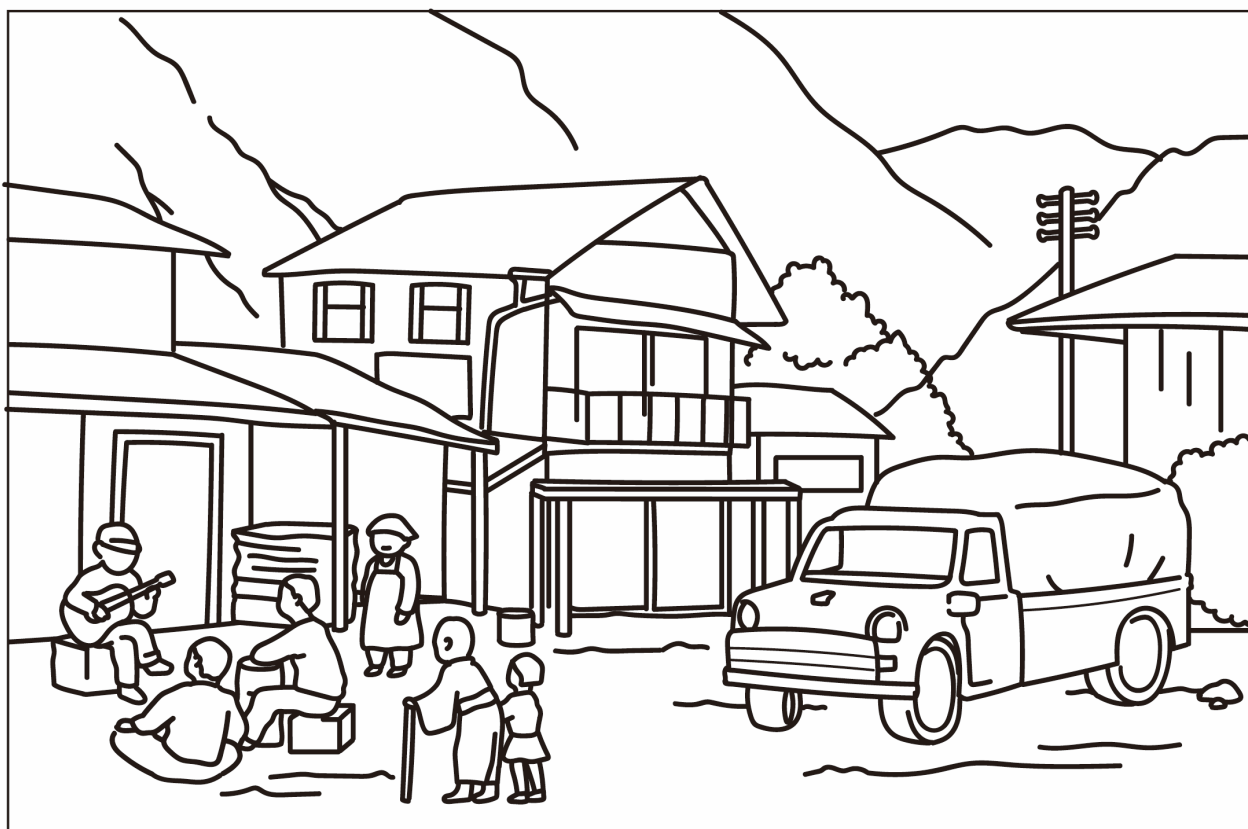
1-②：沢渡を変えた電源開発

梓川は水量が豊富で落差も大きく、また流域の住民も多くなかったことから、大正後期から昭和初期にかけて、電源開発が進み水力発電所が次々に建設された。

沢渡には霞沢発電所と沢渡発電所が建設され、工事関係者の流入や電源開発に伴うインフラ整備により、それまで数戸しかなかった人家は、20戸以上に増えた。

独身寮には30歳以下の若者が10数人入居し、時代・場所柄、娯楽施設等はなかったが、薪炭倉庫で映画を上映したり、楽器を独学して沢渡や大野川で演奏したり、地域住民との交流も盛んであった。

家族で移り住む人も多く、昭和23（1948）年～昭和43（1968）年には大野川小学校沢渡分校が開校され、ピーク時は60名ほどの子どもが在籍した。



1-③：霞沢発電所の建設と上高地の発展

昭和 2 (1927) 年に建設された霞沢発電所は、取水口を大正池とし、水路長 7,656m、有効落差 454m は、建設当時東洋一の規模（世界レベル）であった。

上高地へ向かう旧釜トンネルは、霞沢発電所建設に伴い、大正池への資材運搬のために建設されたもので、後に自動車道として整備され県道へと移行、車両アクセスの始まり（きっかけ）となった。

また、大正池は土砂が堆積しやすく、霞沢発電所が稼働し始めた時点ですでに面積が縮小傾向にあった。発電所を管理する東京電力では、昭和 50 (1975) 年より毎年平均 20,000 m³の土砂の浚渫を行い、大正池の面積・水量を維持している。

霞沢発電所の整備・維持は、沢渡の発展はもとより、現在の上高地の利用と密接に関わり合っている。



霞沢発電所 霞沢発電所の建物内の見学等はできないが、国道 158 号沿い（下り方面）のグレンパークさわんどを通過し、白骨温泉方面との分岐手前の右手に長い水圧鉄管が見える。

大正池 大正池は今や上高地の主要な観光資源だが、浚渫を行わなければ数年のうちに土砂で埋まってしまうと言われる。大正池を訪れる際には、沢渡との意外なつながりにも思いを馳せたい。

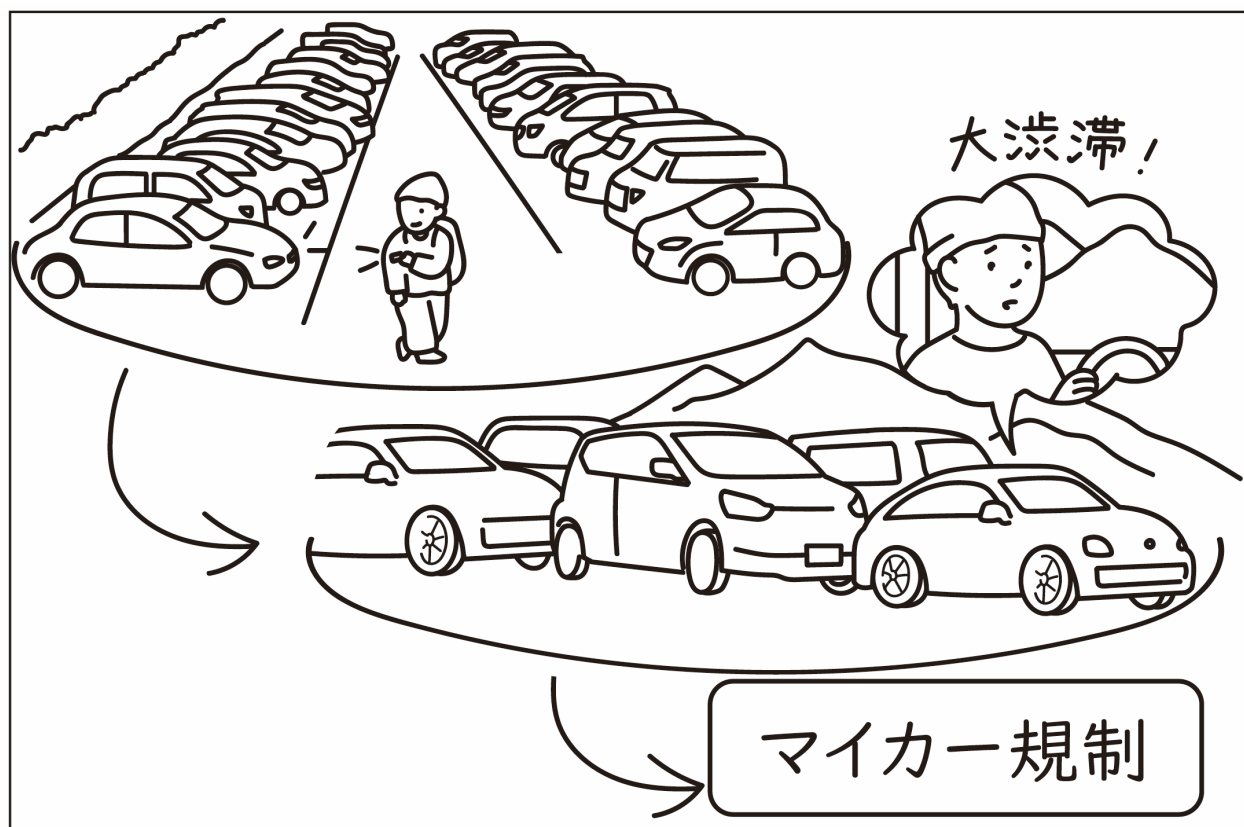
1-④：道路整備の恩恵と代償

上高地は昭和初期に日本八景、名勝天然記念物、中部山岳国立公園となり、一躍世間の注目を浴びることとなった。

時を同じくして、電源開発に伴い整備された工事用道路は、役目を終えたのち一般国道として供用され、上高地、白骨温泉、乗鞍高原へのバス運行が可能となった。

これにより観光客は年々増加し、上高地へ出入りする自家用車も増え続けたが、溪谷地であり文化財かつ国立公園である上高地において大規模な駐車場の整備はできず、沢渡から上高地へ至る道路は大渋滞が常態化するようになった。

大渋滞による公園利用・施設運営面への悪影響をはじめ、騒音、公害問題、植生破壊、事故対策として、昭和 50（1975）年に車両乗入れの総量規制で国内初のマイカー規制を導入することとなった。



国道 158 号、上高地公園線 松本市街地から国道 158 号を通過して沢渡・上高地へ向かうと、上高地へ近づくにつれ、道幅が狭くなっていくことを体感するのではないか。かつての釜トンネルは、現在以上に幅員が狭く、急こう配で立ち往生してしまうマイカーも多かった。釜トンネルを含めて、国道 158 号や上高地公園線は現在も順次道路改良が進められているが、今なお難所が多く、この道を最初に切り開いた苦労は計り知れない。

1-⑤：東の玄関口・沢渡ナショナルパークゲート

上高地のマイカー規制では、長野県側は沢渡地区が、岐阜県側は平湯温泉が乗換拠点となった。

規制導入当初は夏季多客期（7/26～8/24）の30日間のみ終日規制（バス、タクシーは6～19時のみ通行可）の実施だったが、徐々に規制期間・規制時間が延長され、平成8（1996）年に全面規制となった。

これにあわせて、沢渡地区では駐車場の増設、道路の拡幅などの整備が順次進められてきた。

平成24（2012）年には沢渡バスターミナルおよび沢渡ナショナルパークゲートが完成し、「上高地の玄関口」としてゲート機能を高めてきた。ナショナルパークゲートでは「上高地5つルール」を示す垂れ幕をくぐりシャトルバスやタクシーに乗り換える。このゲートをくぐれば、いよいよここから別世界への旅が始まる、という高揚感を得ることができる。



沢渡ナショナルパークゲート ナショナルパークゲートでは、自然散策や登山、天気や交通、利用ルールなど、上高地に関する様々な情報を提供している。市営第3駐車場直結でシャトルバスの始発・終着点やトイレ、売店も併設されているため、まさに上高地へ向かう旅の出発点である。

沢渡バスターミナル 沢渡バスターミナルは上高地へ向かう人にとっては、マイカー規制の乗換拠点となっているが、上高地以外に白骨温泉や乗鞍高原、平湯温泉へ向かうバスも運行されており、文字通り中部山岳国立公園南部地域の「東の玄関口」、「交通アクセス拠点」となっている。

上高地5つのルール+2 国立公園および国の特別名勝・特別天然記念物に指定されている上高地では、採らない、与えない、捨てない、持ち込まない、踏み込まないの5つのルールと乗り入れない、飛ばさないの+2のルールを定め利用者に呼び掛けている。

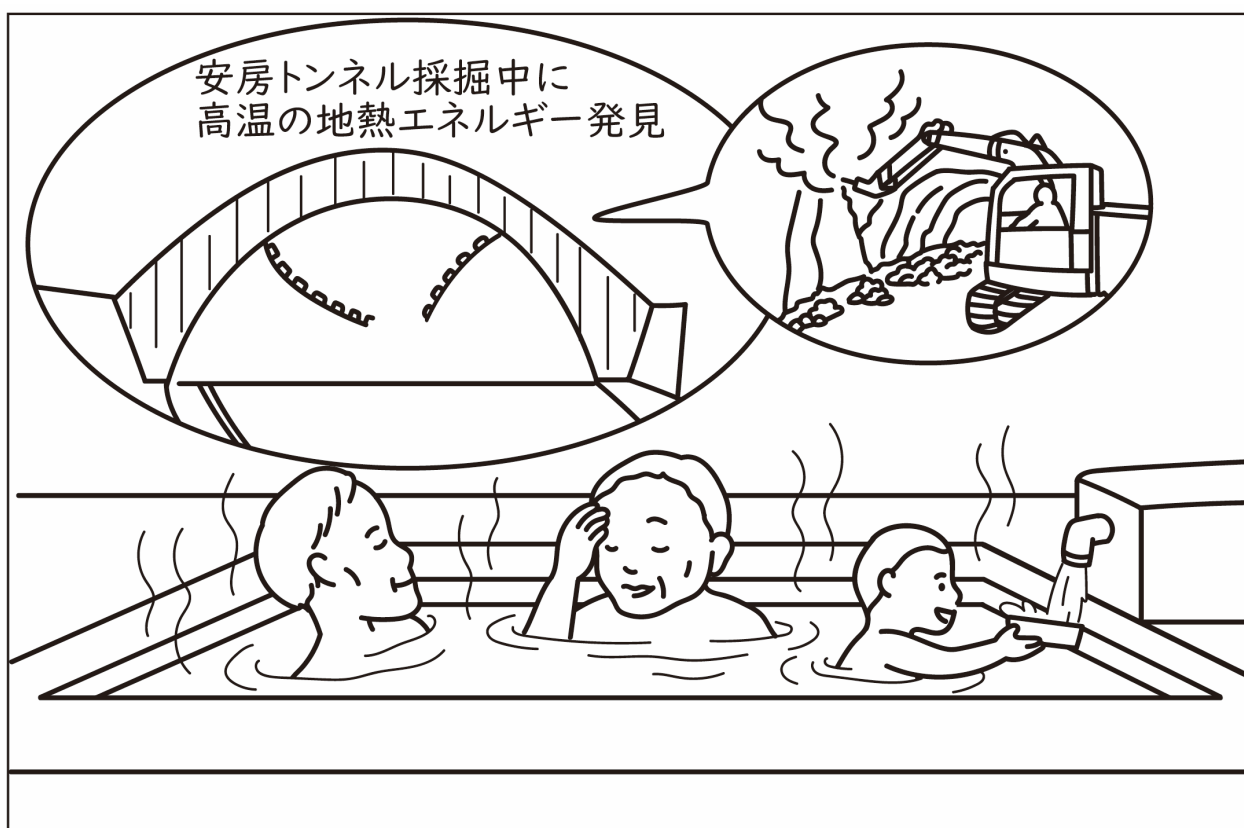
1-⑥：地域の魅力を形成する温泉

沢渡から梓川のやや上流へ向かったところにある坂巻温泉は、古くから川原に温泉が湧出していたとされるが、旅館の営業が始まったのは道路の開通や上高地の文化財および国立公園の指定等と同じく昭和初期。

一方、沢渡に温泉施設が整備されたのは平成 10（1998）年のこと。安房トンネルの掘削時に高温の地熱エネルギーが発見されたことをきっかけに引湯が始まった。

地域の発展とともに整備された温泉は、その後、地域の魅力を形成する貴重な資源となっている。

現在では、日帰り入浴や足湯も提供されており、上高地散策や山岳エリア登山後の疲れた身体を癒してくれる。



さわんど温泉湯の郷公園

湯の郷公園は市営第 2 駐車場に併設されており、天然温泉の足湯がある。足湯は市営第 2 駐車場とあわせて 365 日 24 時間利用可能なため、冬季も含めて四季折々の風景を眺めながら、旅の疲れを癒すことができる。

沢渡ならではの価値・魅力 2

信州と飛騨をつなぐ古道「鎌倉街道」

鎌倉時代の中心地・鎌倉と全国各地を結ぶ道路網「鎌倉街道」。沢渡周辺は信州信濃・飛騨・越中を結ぶ鎌倉街道が通る。この道は、鎌倉時代以降も信州と飛騨を結ぶ貴重な交通網として多くの人に利用されたとされる。

現在は古道となったものの、池尻砦まで遊歩道が整備され、歴史に思いを馳せながら美しい風景を楽しむことができる。

2-①：飛騨との交流を深めた鎌倉街道

2-②：人間活動の名残を感じられる池尻湿原

2-③：飛騨侵攻の最前線に築かれた池尻砦

2-④：悲劇に終わった三木秀綱の信州逃亡

2-①：飛騨との交流を深めた鎌倉街道

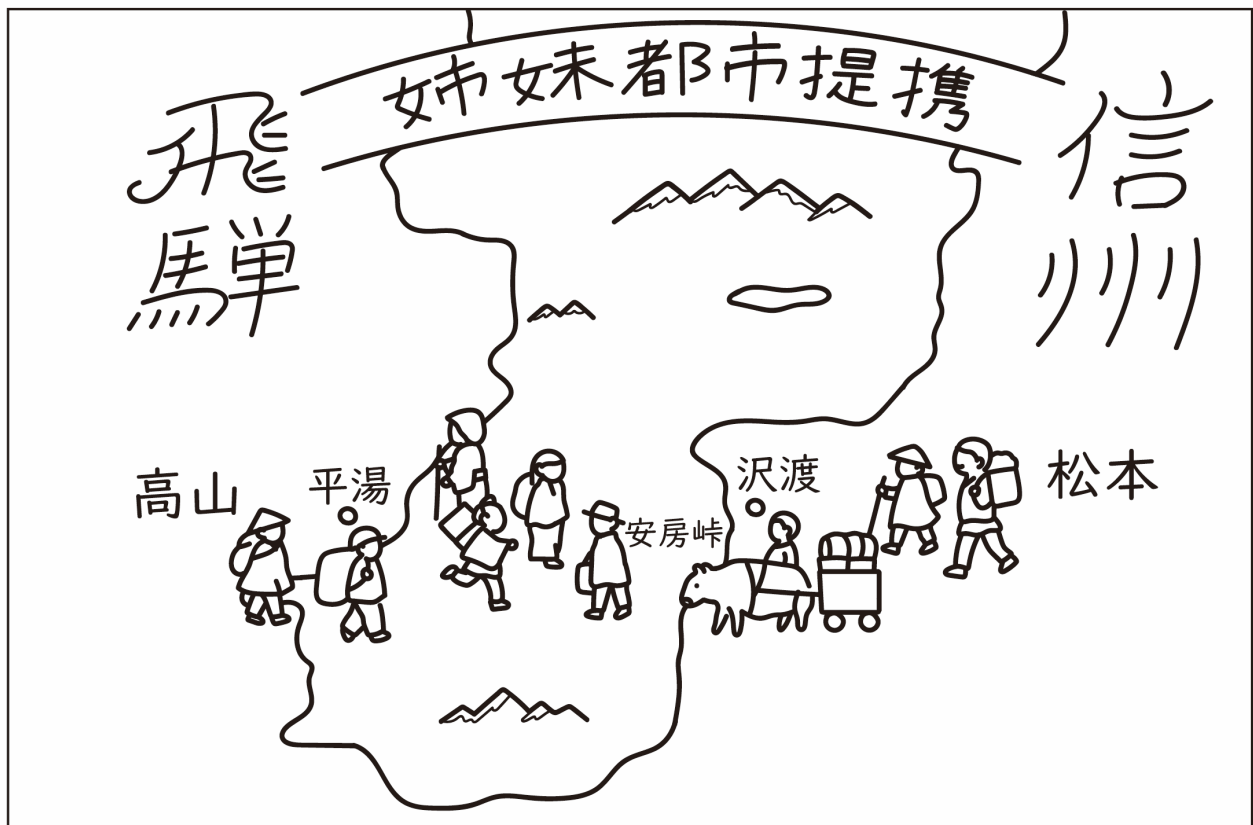
越中から飛騨、信濃へと続く鎌倉街道は、元禄（1688 年～1704 年）のころまで盛んに利用されていた。沢渡はその中間地点となっている。

道路の崩落や治安の悪化により、寛政 2（1790）年に公道・官道としては廃止となったが、その後も物資の交流等は続いたとされる。

昭和 27（1952）年に沢渡～白骨温泉のバス道路が開通するまで、白骨温泉に向かう湯治客の道でもあった。

古くから人や物資の行き来があった信州と飛騨は、昭和 46（1971）年に姉妹都市提携を結び、現在は「松本高山 Big Bridge 構想」の実現を目指して連携を深めている。

現在は道の荒廃が激しく、池尻砦より先の利用は難しいが、平湯まで続く鎌倉街道の名残りは Kita Alps Traverse Route のクラシックルートと言える。



鎌倉街道 沢渡から安房峠付近を越え、飛騨・平湯を経て、越中に至る道を古くから「鎌倉街道」と呼んできた。現在は、沢渡の市営第 2 駐車場から「池尻砦」まで、片道 2.1km、40 分のコースを散策することができる。

2-②：人間活動の名残を感じられる池尻湿原

池尻湿原は、かつて湯川が流れていた谷に残された湿原で、ミツガシワやモウセンゴケ、モリアオガエルなどの希少な生物が生息する。

一方、湿原周辺にはミズナラ・コナラなどから成る雑木林やカラマツの植林が広がり、炭焼き窯の跡、ソバ畑の痕跡なども見られ、鎌倉街道沿いの小盆地として、古くから人間に活用されてきたことがうかがえる。



池尻湿原 池尻湿原は、沢渡から池尻砦へ向かう途中、沢渡の市営第2駐車場から1.8km・35分ほど歩いたところにある。湿原手前には駐車場もあり、車で通行することも可能だが、砂利道で道幅が狭いため、運転に不安のある場合は市営第2駐車場に車を停めて徒歩で向かうのがおすすめ。湿原の周りには木道や自然観察板、四阿が設置されており、湿原の風景や動植物をゆっくりと楽しむことができる。

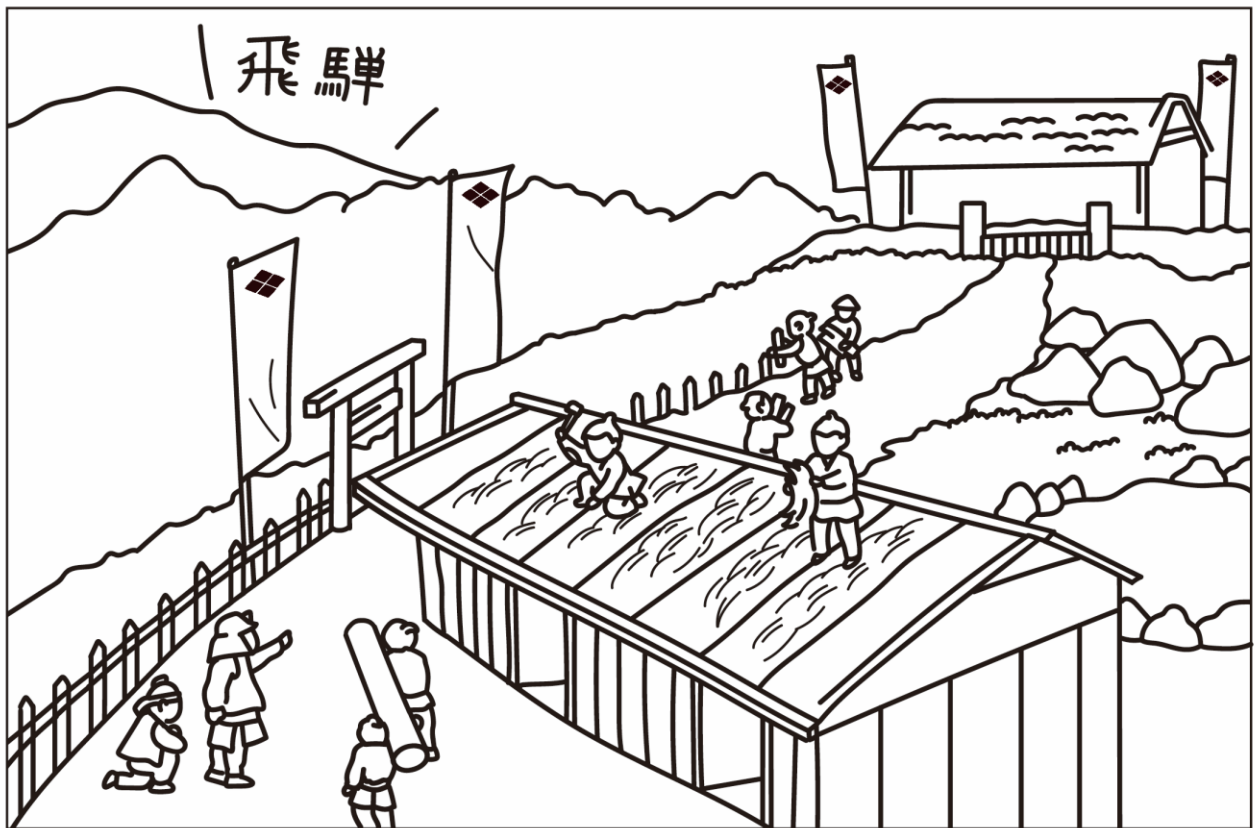
2-③：飛騨侵攻の最前線に築かれた池尻砦

永禄2（1559）年以降、信濃国の支配を目前とした甲斐国の武田信玄は、続いて飛騨侵攻を目指していた。

武田勢は沢渡から鎌倉街道経由で平湯を目指したが、安房峠の道が険しく馬が立ち往生してしまい、道を切り開きながらの侵攻となったといわれる。

一方、飛騨勢は慣れた土地で巧みな山岳戦を繰り広げ、武田勢は飛騨勢を打ち破ることができず、いったん信濃に引き上げ、池尻に砦をかためた。

砦の完成度は低かったが、鎌倉街道沿いに位置し、池や畑跡、屋敷跡などが残されていることから、山城としての条件は良かったものと思われ、飛騨侵攻のための基地として使用されたといわれる。



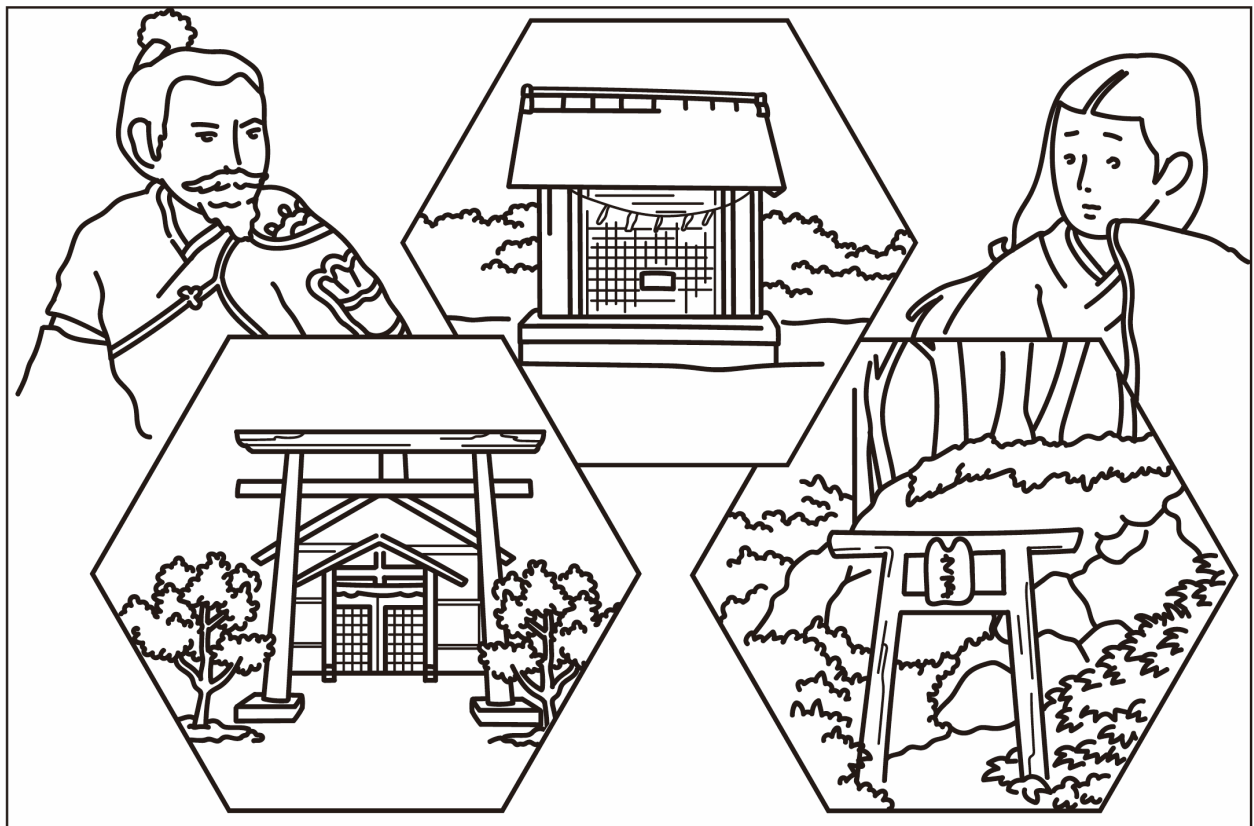
池尻砦跡 池尻砦跡は、池尻湿原からさらに0.3km・約6分、市営第2駐車場から2.1km・40分ちょっと歩いたところにある。池尻砦跡には説明板と石碑、小さな祠がある。

2-④：悲劇に終わった三木秀綱の信州逃亡

天正 13 (1585) 年、飛騨・松倉城の城主である三木秀綱（姉小路秀綱）は、豊臣秀吉配下の金森長近に松倉城を焼き討たれ、奥方とともに信州へと逃亡してきたといわれる。

中尾峠まで到達した際、人目を免れるために隊を小さくしようと、秀綱は鎌倉街道へ、奥方は徳本峠へと、別々の道を進んだといわれる。

島々で落ち合う計画だったが、秀綱は奈川の角ヶ平、奥方は島々谷で、それぞれ討たれて命を落としたとされ、梓川沿いの各所ではこの哀話が語り継がれるとともに、秀綱夫妻を祀った神社等が複数存在し、沢渡の三社明神にも秀綱公が祀られている。



三社明神 三社明神は沢渡ナショナルパークゲートの向かいに位置する。乗鞍岳主峰である剣ヶ峰に立つ「朝日御現社(あさひだいごげん)」、山をつかさどる神「大山祇命(おおやまつみのみこと)」、飛騨高山の松倉城主「三木秀綱公」を祀っており、登山の安全祈願をするのも良い。

安曇資料館 沢渡から国道 158 号を下ると、道の駅風穴の里の少し先に安曇資料館がある。安曇資料館は旧安曇村時代に開館したもので、杣仕事や養蚕業に関する道具類等とともに、三木秀綱にまつわる資料が展示されている。

沢渡ならではの価値・魅力 3

清流梓川とともに生きる暮らし

槍ヶ岳から注ぐ清流梓川は、急峻で美しい渓谷を刻み、イワナやヤマメなどの川魚をはじめとする豊かな生態系を育んでいる。

水の豊富な沢渡は、かつては水運に利用され、現在は多数の発電施設を抱えるなど、梓川は古くから人々の生活を支える存在でもある。

長野県は水力発電所数が全国 1 位となっており、山と川とともに生きる暮らしは、長野らしさを象徴するものとも言える。

3-①：車窓から望む梓川沿いの渓谷美

3-②：梓川の恵みを感じる溪流釣り

3-③：御用杉を支えた中継地点

3-④：自然の脅威であり恵みとなった土砂崩落

3-①：車窓から望む梓川沿いの渓谷美

中ノ湯～沢渡、白骨温泉周辺は、梓川および湯川が急峻な渓谷を構成しており、10月下旬～11月上旬にはカエデ類、ケヤキ、アカシデ、イヌシデ、ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹を主体とする美しい赤い紅葉が見られる。

坂巻温泉付近では川幅が狭くなり、特に岸壁が切り立つことから、天然開渠とも呼ばれる。

上高地へ向かう際はバスやタクシーの中から望むこととなるが、国道158号は梓川沿いを通っており、車窓からでも十分に景色を楽しむことができる。



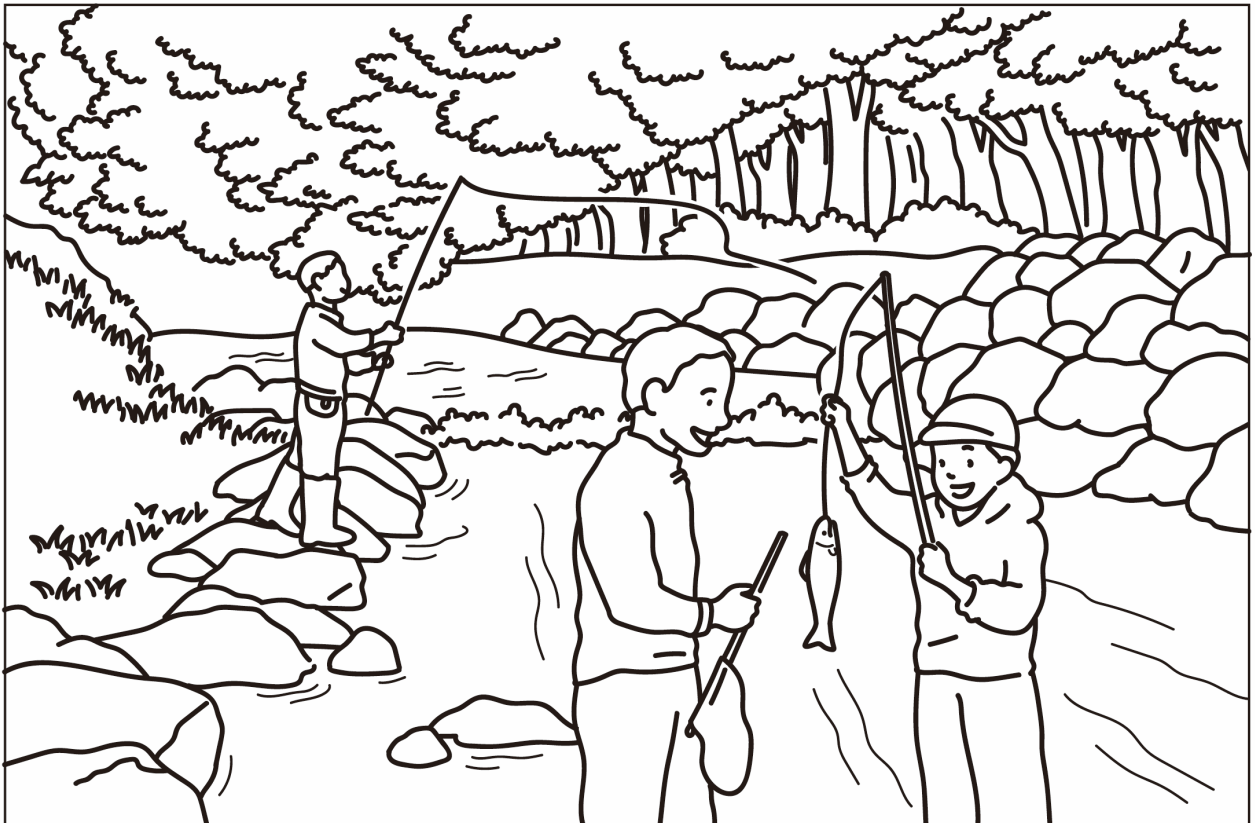
国道 158 号 国道 158 号は渓谷沿いを通っており、道路上からも梓川沿いの渓谷美を望むことができる。運転手はとてもよそ見をできないが、上高地へ向かう際はマイカー規制だからこそ、運転はプロに任せて、車窓からの景色をゆったりと楽しみたい。特に紅葉期は、山岳エリア（涸沢など）で9月下旬、上高地（大正池～横尾）で10月中下旬、中ノ湯～沢渡で10月下旬～11月下旬、沢渡から下流で11月上中旬に紅葉の見ごろを迎え、梓川の上流から下流にかけてどこかでその美しさを楽しむことができる。

3-②：梓川の恵みを感じる溪流釣り

梓川には溪流の冷水域を代表するイワナやヤマメなどが生息している。

上高地は禁漁区となっているが、沢渡では遊漁券を購入すれば、溪流釣りを楽しむことができる。遊漁期間は2月16日から9月30日まで。

溪流釣りは梓川下流でも可能だが、遊漁解禁となる2月中旬はまだ寒さが厳しく、冷水域を好む淡水魚であっても動きが鈍る。しかし、沢渡周辺は上流から流れ込む温泉の影響で、解禁直後から水温が高く、釣りを楽しむことができる。



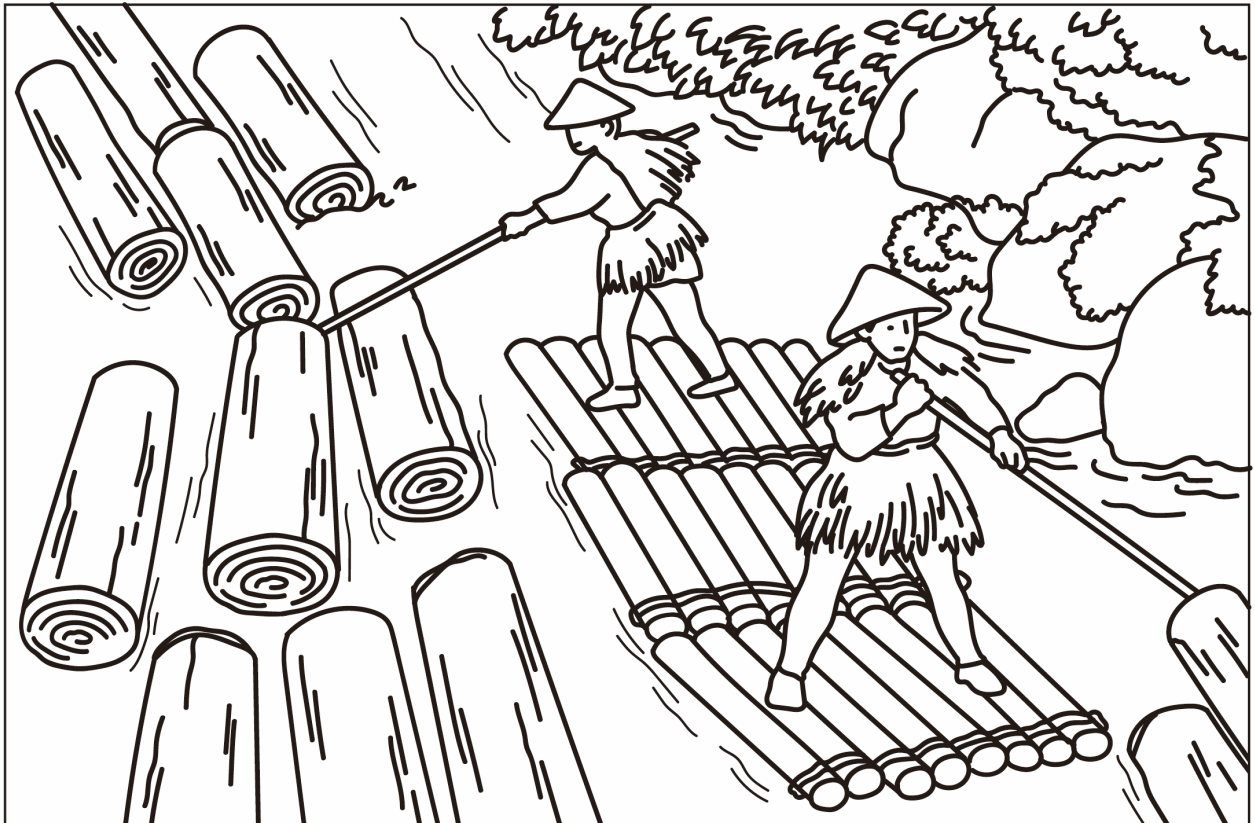
梓川 沢渡周辺は安曇漁業協同組合の管轄で、遊漁券はグレンパークさわんどをはじめ、沢渡内の宿泊施設や食事処等で購入することができる。なお、霞沢発電所堰堤下流110m～上流110mの間は禁漁区となっているため、釣りをを行う際には漁業協同組合の案内をしっかりと確認したい。梓川の下流に下れば梓湖（奈川渡ダム）もあり、梓川沿いには溪流～湖まで多様な釣り場が広がる。

3-③：御用杣を支えた中継地点

沢渡を含む旧大野川村では、江戸時代、御用杣として材木の切り出しを行っていた。

材木は上高地や乗鞍高原、白骨温泉など村内各所から切り出され、土地の特性や時代により様々な方法で運材されたが、上高地から堀米渡場（現在の島立）までの運搬は梓川を利用して行われ、川下げと呼ばれた。

川下げは水量が安定する晩秋から初冬にかけて行われ、沢渡は川下げの中継地点であった。

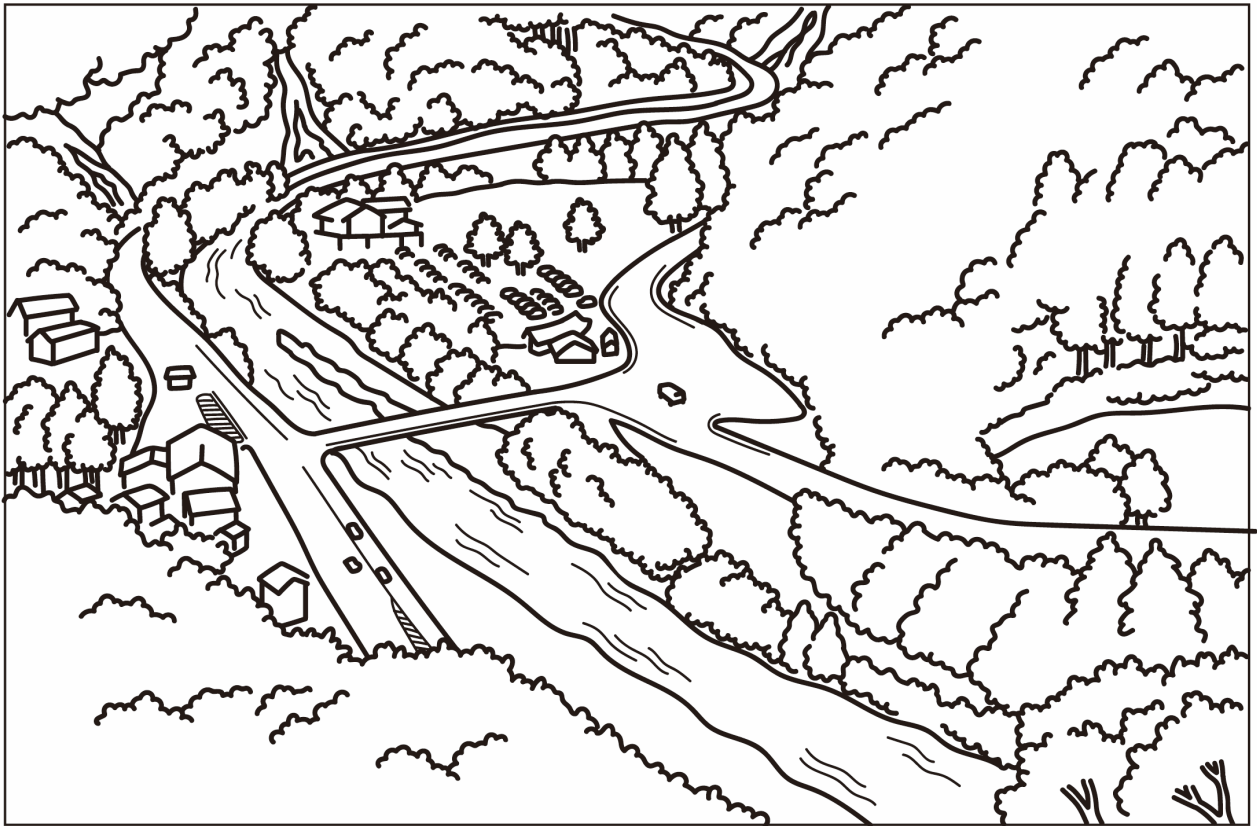


3-④：自然の脅威であり恵みとなった土砂崩落

梓川が谷を掘り下げながら流れることで、山の斜面は不安定になり、梓川沿いでは大小さまざまな規模の崩落が起こっている。

中ノ湯から急峻な谷が続く中、沢渡付近で平地が見られるようになるのは、下流での土砂崩落による川の堰き止めによるものと考えられている。

土砂崩落や川の堰き止めは災害とも言える自然の脅威だが、自然がもたらした平地の恵みがあったからこそ、前述のように川下げの中継地点、電源開発、旅の玄関口といった役割を果たし、地域の発展を遂げてきた。



Kita Alps Traverse Route

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集 -沢渡エリア編-

2025 年 3 月

環境省信越自然環境事務所 中部山岳国立公園管理事務所

〒390-1501 長野県松本市安曇 124-7

TEL 0263-94-2024

FAX 0263-94-2651